

世羅町との地域戦略協働プロジェクト 「空き家を活用した地域振興」実施状況

世羅町の担当者と協議し、世羅町への移住希望者(特に子育てをするような若い世代の人)が生活を始めるために必要な情報の集積が必要であることを確認した。必要な情報とは、小学校やスーパー、病院などの配置状況と移動時間、利用可能な時間帯である。現在、それら情報を収集し、地図上へのプロット作業を行っている。



本学学生が RESAS を用いてデータ抽出を行っている様子

対象としている主な施設は、以下の通りである。

- ・ 小学校、中学校など教育に関する施設
- ・ スーパーなど、日常的に商品を購入する場
- ・ 診療所や病院など、医療に関する施設
- ・ 保育園や子育て支援センターなど、育児支援に関する施設
- ・ 役場や図書館、郵便局など、公的施設や情報提供を行う施設

この他、空き家を提供する人向けには、不動産業者やリフォーム・工務店との連携を行い、世羅町版「空き家の手帖」(六原まちづくり委員会、ぼむ企画 著)の作成を行う必要性を世羅町と共有している。また、これまでに、①空き家対策の実務に関する要点の整理、②松山の優良取り組み現地調査の実施(1月)を行った。

引き続き、上記情報の地図上へのプロット作業を行うとともに、「一般社団法人 移住促進センター」、鳥取における「移住・交流情報ガーデン」の聞き取り調査などを実施する予定である。